令和３年（2021 年）３月 17 日
豊中市立第十三中学校 学校だより

Team13

－ 18 －

校訓「自主・創造・敬愛」

ホームページ URL　http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/jh13/

卒　業　式

３月１６日、第 42 回卒業式を挙行しました。壁には３本の桜の木。１本は後輩からの、２本は卒業生からのメッセージの花が満開です。卒業生２３２人の一人ひとりに卒業証書をお渡しし、校長式辞、卒業生別れの言葉、卒業の歌と式は進行しました。厳粛な雰囲気の中、42 期生の卒業式は滞りなく行われました。内容を一部紹介します。

■卒業式　校長式辞

４２期生の皆さん、皆さんの三年間の最後の年は、５月下旬までの休校措置で幕が開き、その後も１年中新型コロナウイルスへの対応に明け暮れた年でした。昼食時には友だちと喋ることもできず、体育大会は短縮プログラムでの実施となり、修学旅行は２日間の日帰り旅行となりました。

しかし、そのような環境の中、皆さんはいろいろな事を学び、自分の力を伸ばそうと努力されてきました。クラブの試合が開かれるかどうかわからない中で努力を続け、やっと開かれた大会で素晴らしい成績を収めた人がたくさんありました。

また、絵画、書道、作文、プレゼンテーション、意見発表会などの文化的な活動においても高く評価された人も多かったです。もし、たとえ大会やコンクールで良い評価を得られなかったとしても、皆さんの一生懸命に頑張る姿は私の目に焼き付いていますし、その経験は自分自身の心の中に思い出として、あるいは達成感や自信として、これからの人生の糧となることと思います。

さて、間もなく皆さんは９年間の義務教育を終え、今後は自分の力で道を切り拓いてゆくことになります。皆さんの中には、明確なイメージを持って４月からの生活に臨もうとされている人がとても多い、という印象を持ちました。４２期生は取り組んできたスポーツや演奏技術を極めるために中学校からの推薦を受け進学する人が例年以上に多いです。また皆さんが描いた将来の夢。農業、理学療法士、教師、司法書士、放射線技師、ゲームクリエイター、医師、研究者、漁業…。とても具体的な夢を持っている人が多い、と感じています。

やりたいことが見つかって、その夢を追いかける人は、いわばスペシャリストへの道を目ざしているわけです。中学校卒業の段階でそれが見つかっている人は、とても幸せだと思います。

しかし、今それが見つからない人も心配する必要はありません。スペシャリストに対してジェネラリストと言う言葉があります。それは、幅広い知識や経験を持ち複数のスペシャリストの仕事や意見の調整をし、全体を客観的に判断して物事を進める人です。

例えば今回の新型コロナウイルスの対応にしても、医療の専門家と経済の専門家の意

見を調整しながら何とか最適な解決策を見出そうとしています。スペシャリスト的な生き方、ジャネラリスト的な生き方、または、その中間を行く生き方。皆さんは、これからの数年間で自分の生き方を模索していかれると思います。

中学校では一歩を踏み出す勇気がなかなか出なかった人も決して遅くありません。人生 100 年時代と言われます。皆さんの本当の人生はいよいよこれから始まるのです。自分を高めるためには、失敗を恐れず様々なことにチャレンジする姿勢を持ち続けてください。そして、自分自身の夢を見つけ、それをさらに進化させて「自分はこんな風に世の中に貢献していこう」という志を立てて欲しいと思います。
志とは何でしょうか。ある実業家の方は次のような事を言っておられます。

夢と志は違います。
夢は漠然とした個人の願望であり、志は個々人の願望を超えて多くの人々の夢を叶えようとする気概です。
夢はこころよい願望だが、志は厳しい未来への挑戦です。

皆さん一人ひとりが立てる志が集まって、次の時代を、新しい世の中を作ってゆくのです。私はとても期待しています。
（後略）

卒業生別れのことばから

３年生の別れのことばには、４２期生の１年生の時からの成長の様子が綴られていました。同級生の人柄がわかってくるにつれて、だんだん友達の輪が広がり、学年の皆がつながり始めたこと。体育大会やキャンプなどの行事のときに役割分担で協力したことにより、よりつながりを強く感じるようになったこと。友だちの意外な一面を見ることができたこと。全体で一つのものを作り上げたときに感じた達成感や高揚感。苦しい時に励まし合い支え合うことや、嬉しい時は喜びを分かち合うことが大切であることを知ったこと。みんなが全員の思い通りにはならないことを受け入れ、柔軟に考えることが必要であること、、。

部活動で皆さん後輩との関わりについても語ってくれました。後輩にうまく説明が伝わらなかった時に、自分たちが先輩に支えられていたことに気づいた、そして後輩を指導する中でだんだん自信がついてきたこと。先輩から積み重ねてきたものを後輩にしっかりと受け継いでいくのだという強い意志ができたこと。
３年生になって長い休校期間が明けたときに、当たり前の日々がとても幸せでかけがえのないものだと気づいたこと。感染予防のために制限のある中でも精一杯やってきて、培われた絆や努力した日々は失われることなく自分たちの宝物になること。

受験に向けては、初め一人で乗り越えて行くものだと思っていたけれど、友だち、先生、家族の支えがあり、不安で心が押しつぶされそうになった時も励ましで心が軽くなったり、入試当日も家族がいつも通りに接してくれたりしたことに温かさを感じたり、人の支えに感謝の思いでいっぱいになったこと。

最後は先生たちが見放さずに真っ直ぐ向き合ってくれたことや、友だちとの切磋琢磨、家族の支えによって成長ができ、卒業という新しいスタート地点でこれからの人生を悔いのないように送る、という決意で締めくくってくれました。

1,2 年生の皆さんには、先輩の言葉をしっかり受け継いで中学校生活を送ってほしいと思います。先生たちは十三中生みんなを応援しています。